



# CLINICAL PATH NEWS

Japanese Society for Clinical Pathway  
日本クリニカルパス学会

No.  
31

発行日  
2014年3月25日

in 岩手

## 第14回日本クリニカルパス学会 学術集会

2013.11.1 ~ 2

第14回学術集会 会長、岩手県立中部病院 院長  
北村道彦

第14回日本クリニカルパス学会学術集会は、平成25年11月1日（金）～2日（土）の2日間にわたり、岩手県盛岡市、盛岡地域交流センター（マリオス）と、いわて県民情報交流センター（アイーナ）にて開催させていただきました。

学術集会のメインテーマは『患者中心の医療の展開』といたしました。

主なプログラムとして、理事長講演、会長講演、特別講演2題、教育講演8題、シンポジウム6セッション、パネルディスカッション2セッション、ワークショップ2セッション、プレコングレスワークショップ、トークセッション、教育セミナー、論文の書き方セミナー、学術奨励賞（論文賞）発表を用意いたしました。このうち、特別講演2、シンポジウム2、ワークショップ2、トークセッションではメインテーマに沿った発表が行われ、『患者中心の医療』への取り組み推進に向け、活発な討論が行われました。

会員に広く門戸を解放することを目的に、いわゆる企画ものは原則公募としました。予想以上に沢山の応募をいただき、大きな反響がありました。ご希望に応じることが出来なかった応募者の皆様には心からお詫び申し上げます。



102歳になられた本学会名誉会員の日野原重明先生の特別講演は先生の強いご希望で市民公開講座としました。満員の会場で素晴らしいパフォーマンスをご披露頂き、感激いたしました。

多職種チーム医療、地域包括ケア、医科歯科連携、がん化学療法における薬剤師とパス、Basic Outcome Masterの活用と課題、パスの次なる飛躍、認知症ケアなどのシンポジウム等の企画は沢山の参加者があり盛会でした。パス学会電子化委員会発足記念の電子パス標準化のシンポジウムも大成功でした。

一般演題はすべてポスターとし、発表時間には他のセッションは出来るだけ行わず、全員で討論に参加してもらうことを目指しました。幸い405題と多くの演題をお寄せいただき、各会場で活発な討論がなされました。

前回の若宮会長がなされた企画のうち、座長賞、学術奨励賞（論文賞）、抄録記載の標準化と充実等を継承し、参



北村道彦 先生

加型のスイーツセミナーはプレングレスワークショップとして学会前日に行いました。

本学会集会の参加者は約 2,200 名と多くの方においでいただきました。東北地方の発表は倍増し、今まで発表の少なかった職種の発表も若干増加しました。開院 5 年目の病院の主催で、多くの不安がありましたが、歴代の会長先生や、理事長、理事、監事、評議員、プログラム委員、学会メーリングリストの皆様等々、多くの方のご支援を頂き、責を全う出来ました。ご厚情に心から感謝いたします。

来年は福井総合病院 勝尾信一会長のもとで、第 15 回学会集会在開催されます。さらに盛会となることをお祈りいたします。皆であわら温泉に行きましょう。



in 岩手

## 第14回日本クリニカルパス学会 学術集会賞 最優秀賞によせて

2013.11.1 ~ 2

帝京平成大学薬学部 濃沼政美

まさに、“じぇじぇじぇ”という瞬間でした！これが懇親会会場で最優秀賞の発表があった時の私にぴったりの反応です。去る 11 月に岩手県盛岡市で日本クリニカルパス学会 第 14 回学術集会在開催されました。会長は予めより尊敬させて頂いている岩手県立中部病院院長の北村道彦先生、テーマはクリニカルパス普及の原点ともいえる『患者中心の医療の展開』ということからも、例年に増して参加を楽しみにしておりました。学会前日の深夜に盛岡に到着し、翌朝少し早めにポスター会場へ。すると貼付時刻となっ

たばかりにも関わらず、多く参加者が会場に溢れており、本学会に対する関係者の熱い思いが非常に強く伝わってまいりました。

今回私がエントリーさせて頂きました演題は、「我が国の医療制度下におけるクリニカルパスの効果の検証 ～在院日数と医療費を焦点としたメタ・アナリシス～」というものです。この研究は、昨年の第 13 回学術集会（岡山）で池田俊也先生や小林美亜先生、宮崎美子先生らと共同で発表させて頂いた宿題報告のテーマを基に、データ解析を推し進めたものであります。この研究の目的としましては、我が国にクリニカルパスが導入されて十余年経ちますが、実際にクリニカルパス医療現場への導入が、患者の入院日数の抑制や医療費の削減に対してどの程度メリットがあったかを、網羅的に明らかにすることでありました。そして、パスを外科系、内科系に分けた場合や、DPC 導入施設であるか否かなどが、パスの効果に対しどのような影響を与えているかという視点で解析を行いました。このメタ・アナリシスにより、いくつかの結果を得ることが出来ましたが、中でも外科系パスは在院日数よりも総医療費の削減効果が大きい、内科系パスは総医療費よりも在院日数の削減効果が大きいなど、新たな知見が得られました。





また、非 DPC 施設パスの方が DPC 施設パスに比べて在院日数および医療費の削減効果が高かったなど、包括医療制度を考えるうえで、今後参考となり得る知見も得られたと考えました。これからは保険制度の改正に伴い、クリニカルパスによる効果がどのように変化するかについて研究を続けたいと考えています。

このたび、私が最優秀賞という名誉な賞を頂けたのも、全て前述致しました共同研究者である「チーム伊予柑（イ：医師・ヤ：薬剤師・カン：看護師＝多職種によるパス研究チーム）」の先生方のお陰であると思っています。この場を通じてお礼申し上げたいと思います。本当に有難うございました。

これからも研究を通じてクリニカルパスの普及に対して、邁進してまいりたいと考えておりますので、パス学会会員の皆様におかれましては末永くご指導を賜われれば幸いです。

#### 【日本クリニカルパス学会 第 14 回学術集会賞 受賞者】

##### 最優秀賞：

帝京平成大学 濃沼 政美

##### 優秀賞：

神戸大学医学部附属病院 高岡 裕

大阪警察病院 小野 律子

平内中央病院 米田 良平

相澤病院 小林 勝

長崎大学病院 岸川 礼子

##### 入賞：

金沢大学附属病院 中村 慶史

恵寿総合病院 川村 研二

東北大学 谷口 肇

岡崎市民病院 飯塚 彬光

京都桂病院 藤原 直子

東京女子医科大学病院 小林 千鶴

船橋整形外科病院 田村 恵子

トヨタ記念病院 滝 俊一

鶴岡市立荘内病院 丸谷 宏

伊勢崎市民病院 竹澤 豊

済生会熊本病院 福井 秀幸

岩手県立胆沢病院 青沼さくら

国保松戸市立病院 時永耕太郎

八尾徳洲会総合病院 瓜生 恭章

(順不同)



in 岩手

## 第14回学術集会企画 エクスカージョンに参加して

2013.11.2～3

名古屋大学医学部附属病院 三浦美幸

11月2日～3日に釜石・大船渡・陸前高田と岩手県立高田病院を訪ねるエクスカージョンに参加しました。盛岡での学術集会後、各々の想いを胸に花巻温泉に集まったのは職種、医療機関、役職も様々な総勢14名。岩手県立高田病院の田畑院長を囲み、皆さんとフランクな雰囲気懇親会からスタートする前夜となりました。

翌朝は澄み渡る青空に鮮やかな紅葉がとても美しく映える穏やかな秋晴れ。岩手の自然豊かな山々を車窓から眺め釜石へと向かいました。

当時釜石大観音で被災された職員の方からお話を伺いま

した。見る見る間に黒く染まり、姿を変え迫り来る釜石湾の津波のこと、そして生かされた者の決意を率直な言葉で語ってくださいました。震災から2年8ヶ月経過した釜石湾と、それを見守る観音様の表情はとても穏やかで、俄には信じ難いお話でしたが、周りを見渡せば復興が進んでいるのは一部で津波の爪痕の大きさにハッとさせられました。

大船渡を經由し、いよいよ陸前高田市へ。車内の雰囲気が一変。車窓からはニュース映像で幾度も目にした有様が否応無しに目に映ります。いささか緊張のなか県立高田病院を訪れました。現在は仮設診療所を開設された病院施設の一室で被災当時の高田病院の様子を島貫医師、鈴木看護師やスタッフのお言葉でお話いただきました。

屋上から高田松原沿岸を写した2枚の写真。僅か1分足らずで目前に迫り病院を濁流に呑込む津波が捉えられていました。それは褥瘡回診の医師がとっさにおさめた写真で「神様がとらせたくれた」と師長は表現されました。

事実をそのまま切り取った写真は視覚に訴え、共に語られる医療者の強く熱い人命救助への想いと、被災者のひとりとしての言葉に胸を締め付けられる想いで聞き入りました。島貫医師は震災の経験を風化させないこと、そして最大限の避難を行う大切さ、さらに備えとして訓練をおごなりにしないことも訴えられていました。田畑院長は急性期医療の現場においても、お薬手帳をはじめ、医療情報の必要性を説かれ、医療情報に関わる私にとって重大さを再認識する機会となりました。

このたび被災地を訪れ、人間の真の強さと、人と人との繋がりをもたらす壮大な力を改めて実感いたしました。そして、震災への警鐘を鳴らす方々の想いを少しでも多くの方へ届け響かさなければ！という思いを強くしました。

このような機会を頂き有難うございました。被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。



in 岩手

## 第14回学術集会企画 エクスカージョンに参加して

2013.11.2～3

名古屋大学医学部附属病院 原 明希

11月2日～3日、岩手県盛岡市で開催された日本クリニカルパス学会のエクスカージョンに参加してきました。この企画は、東日本大震災の被災地岩手の現状や震災時のお話を伺うという主旨の旅で、学会終了後花巻温泉に一泊し、釜石・大船渡・陸前高田を訪ね、岩手県立高田病院の職員の方の講話を拝聴しました。

この旅の中では、やはり、県立高田病院の職員の方の被災時の体験談と災害医療の活動の講話が最も印象に残りました。県立高田病院は3.11の翌日、屋上に津波から避難した人々が、ヘリで救助される様子がテレビ中継されていた病院です。

仮設病棟の会議室での講話は、津波が病院に迫ってくる写真を交えながら進められました。ものすごいスピードで襲ってくる津波に、助けられず部屋に残した患者に謝りながら避難した無念な思い。津波がひいた直後から、混乱する中でも役割分担を決め、患者のケア・遺体の確認等の対応にあたったこと。ポリ袋をかぶりオムツを体に巻きつけ身を寄せ合って過ごした、寒くて不安な長い長い夜。そして、被災後から今日に至るまでの訪問診療・看護を中心とした地域に根ざした医療活動、等々。それらは実際に体験し、医療者として対応された方々のとても貴重なお話で、聞きながら涙が止まりませんでした。

こうしたお話を伺い、私のような事務職は災害時にいったい何ができるのだろうかと考えさせられました。しかし、何かしたいと思い、講和中の「災害はいつどこで起こるか分からない。だからこの惨事を風化させないことが経験した我々、そして見聞きした皆さんの責務だ」との職員の方の言葉を胸に職場でこの旅の報告会を行いました。また、カルテに関わる仕事をする者として、災害に備えたカルテの保管方法の検討等、少しずつでもできるところから始めていきたいと思えます。







リレーエッセイ 第25回

## 忘れられない「お台場 ラベンダー事件」

小諸厚生総合病院 小林美津子

皆様こんにちは。

小諸厚生総合病院でパス専任看護師をしている小林美津子です。

パスに出会ってからかれこれ14年。もうそんなに経つのですね。私がパスに出会ったのは、泌尿器科外来に勤務移動になった時でした。患者さんは高齢者が多く、医師が前立腺生検の入院説明をしても家に帰ると忘れて何の入院かわからない、検査を手術と勘違いする等、正しく伝わらず、翌日必ずご家族から電話で再度説明を迫られ、その対応で業務に支障を生じることが多々ありました。初めての外来業務で慣れない私に容赦なく鳴る電話。これはどうにかしなければ。患者さんやご家族にわかりやすく正しく伝える良い方法はないか？と思っていた時に、患者用パスを知り「これだ！」と飛びついたのがきっかけです。私のパスはインフォームドコンセントが始まりでした。さあそれからはパスの研修や講演会があると出かけては新しい学びと発見、人との出会いに脳と心を揺さぶられ、どんどんのめり込みました。

さて、病院では2000年にパス推進委員会が立ち上がり、事務局として本格的な活動が始まりましたが、決して順風満帆ではありませんでした。思い出すのは、まずトップにご理解いただこうと、何回も院長へ直談判したこと（当時は怖いもの知らずでした）。剃毛と術後創のイソジン消毒廃止のため外科医長を創傷講演会に連れ出す計画を立て、ドタキャンされないよう根回し、当日は医長の後を金魚の糞のようにくっついて逃がさないように自分の車に乗せて講演会に行ったこと（翌日から廃止になった）。パス室を開設したら、パス以外の悩みの相談を多々受けるようになったこと（一番驚いたのは、若い医師が仕事で看護師を泣かせたことを懺悔に来たこと）。どれもこれも専任の仕事であり、すべてが大切な出会いでした。また、パスは「医療人の知識と技術そして医療への思いを形にしたもの」を合言葉に、パス大会の工夫、パス室開設、日本初の勤務扱いのパス合宿、カレーライスパスなど新しい挑戦ができたのは、管理者の理解、歴代のパス委員長、委員の皆さんに支えていただいたお蔭、心から感謝しています。

そしてもうひとつは、パス学会で出会った共に歩む仲間がいたことです。大きな壁にぶつかった時、沢山の仲間にもいつも助けていただきました。悩んだ時は、学会で皆さんに知恵と勇気とパワーを頂き、また頑張る。学会はいつも私のパワースポットです。その中で、学会やセミナーでお会いするとお酒や観光と一緒に楽しむ仲良しがあります。その3人の忘れられない出来事をお話しましょう。

仲良しなのは山形のMさん、東京のSさん。私も含め皆さんそれなりの年齢。お酒が入るとしゃべりだしたら止まりません。あるセミナーの後に女子会を計画し、山形のMさんから「お台場のホテルのコースを予約した」と連絡をいただき楽しみに当日を迎えました。コースは「ラベンダーコース」。なんてお洒落な名前。素敵なホテル。Mさんは堂々とスマートに受付しています。さすがMさん。田舎者の私は後ろから尊敬の目で見ていました。

- ・ Mさん「ラベンダーコースを予約した山形のMです」
- ・ 受付「ラベンダーですか？お調べします。しばらくお待ちください」
- ・ 受付「Mさま、ベランダコースでございますね。そちらのドアから外へお進みください」
- ・ 3人「ベランダ？・外？」「ラベンダー・・・ベランダ？・・・ベランダ！Mさん・・・」(3人爆笑)お腹がよじれました。

ベランダは、芝生にソファ、テーブルにキャンドル、飛行機の明りを見ながらのロマンティックなカップルばかり。でも3人は周りのことなど気にしません。パワー全開の大声で笑い、語らい、飲み、お台場の夜を堪能したのでした。こんな楽しい時を共有できるのもパスに出会ったからです。

今後も出会いを大切にしたいと思います。全国の皆さんよろしくお願ひします。

さて、今回は3人のひとり東京労災病院の信藤涼子さんです。



小林美津子看護師（中央）



## 第15回 日本クリニカルパス学会学術集会

会 期：平成26年11月14日（金）・15日（土）

会 場：福井県あわら温泉  
 グランディア芳泉（福井県あわら市舟津 43-26）  
 清風荘（福井県あわら市温泉 3丁目）  
 まつや千千（福井県あわら市舟津 31-24）  
 美松（福井県あわら市舟津 26-10）

会 長：勝尾信一（福井総合病院 副院長）

メインテーマ：『パスでつなごう！患者と医療者の心』

プログラム：

理事長講演、会長講演、特別講演、教育講演、シンポジウム、  
 パネルディスカッション、教育セミナー、論文の書き方セ  
 ミナー、一般演題（口演・ポスター）、クリニカルパス展示、  
 15回記念特別企画など

参加登録募集期間：

平成26年5月1日（木）～10月17日（金）

演題募集期間：

平成26年6月15日（日）～7月31日（木）

第15回学術集会ホームページ：<http://www.f-gh.jp/jscp15/>



### 2013年度 クリニカルパス教育セミナー

#### 『クリニカルパスを役立てよう！広めよう！～実践ノウハウ～2014』

【大阪会場】 会 期：2014年7月26日（土）13：00～17：00  
 会 場：ドーンセンター（大阪府大阪市中央区大手町 1-3-49）

【東京会場】 会 期：2014年8月9日（土）13：00～17：00  
 会 場：一橋大学 一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター 2階）

参加登録：学会ホームページ（<http://www.jscp.gr.jp>）からオンラインにて登録してください。詳細は学  
 会ホームページをご覧ください。

### 平成26年度 学術研究助成のご案内

【応募資格】 主任研究員は日本クリニカルパス学会個人会員で、会員歴3年以上とする。

【助成金】 1件につき10万円から50万円とし、予算総額は200万円とする。

【応募期間】 平成26年4月1日から6月30日を応募期間とする。

※詳細は学会ホームページ（<http://www.jscp.gr.jp>）、または学会誌第16巻第1号をご覧ください。